

安全運転のために

快適のお気持ちと心地良い服装を着用するのは安全運転の要領です。

- ① 袖口をしっかり締め、整然とする服装をしてください。袖口がブレーキレバーにかからないように注意してください。
- ② 安全基準を満たしたヘルメットをかぶって、必ずあごひもをしっかり締めてください。
- ③安全のために、運転中は必ず両手でハンドルを握ってください。片手で操作することは危ないので、ご注意ください。
- ④底がフラットなシューズはより安全です。

※注意

1. スクーターに乗車する時に、安全の運転操作に邪魔がなく、適切な服装にしてください。
2. 運転中、または停止後30分間内に、排気管の温度は非常に高いので、やけどをしないように、ご注意ください。
3. 万が一のため、スクーターを使わない時、乾草や燃えやすい物から遠い場所に保存してください。



スクーターの使い方

1. リラックスした状態で自由に操作できます。
2. 二輪車の操作安全性について、乗車者の座り位置によって決まりますので、常に、車のシートのセンター部に座ってください。仮に、乗車者がシートの後半部に座れば、前輪の負荷は軽減して、ハンドルが揺れ動き、危険な状態が発生しやすいです。
3. 車が角を曲がる時、体はかすかに内側に傾けると比較的に曲がりやすいのです。車と体と内側に向ってやや傾かないと、運転は比較的不安定になります。
4. 舗装が壊れ、小石がある路面の場合、走行はより不安定です凸凹の路上で走ると、まず状況を十分に確認し、速度を遅くし、ロースピードで運転してください。手首や、肩をリラックスして、ハンドルをしっかり掴んでください。



積載物

1スクーターの積載状況によって、ハンドルを掴む感覚も変わりますので、ご注意ください。積載物の重量が規定の限度を超えると、ハンドルが揺れやすくなります。超荷重で運転しないでください。
2.排気管の温度が高いので、後同乗者は乗、下車する時、やけどにご注意ください。

※注意

1. 車体の構造が機能性に関わりますので、改造は操縦性を悪化させ、ひいては車両の寿命を縮めることがありますので、安全運転に影響を与えます。
2. 改造は違法な行為です。保証権利を失います。
3. スクーターシートの下（ラゲッジBOX内）で布類の保存は禁止です。エンジンの燃料システムの運行不調の原因となり、エンジンの運行も不順調になる恐れがあります。
4. 火災を避けるため、車体のカバーとエンジンの間に何の布類も置かないでください。
5. 指定以外の場所に物品を載せないでください。



①フロントBOXの積載重量：1.5KG

②後付け 荷物ラックの積載重量：5KG

③ラゲッジBOXの積載重量：10KG

備考：安全のために、貴重品はBOX等に保存しないでください。

各部の名称

- ① 起動ボタン
- ② メインスイッチ/シートロック
- ③ ウィンカーランプ
- ④ 車台番号
- ⑤ バッテリー
- ⑥ テールライト
- ⑦ 排気管
- ⑧ エンジンオイル注入口
- ⑨ メインスタンド



各部の名称

- ① ガソリン給油口（シート下）
- ② 荷物ラック
- ③ テールライト
- ④ ウィンカーランプ
- ⑤ エンジン番号
- ⑥ ヘッドライト
- ⑦ 前照灯Hi&Low切り替えスイッチ
ウィンカーランプスイッチ
パッシングスイッチ
- ⑧ ヘッドライト
- ⑨ ウィンカーランプ
- ⑩ 銘板プレート



各部の操作について

メーターパネル、指示灯の操作

①積算距離計:走行した距離をキロメートル(km)の単位で示します。

②時計:時間を示します(AM:午前 PM:午後)。

③速度計(スピードメーター):走行中の速度をkm/hで示します。

④燃料計

燃料タンクのガソリンの容量を示します。指示灯の最後の一格が点滅すると、ガソリン残量約1.0Lの意味で、早めに無鉛ガソリンを補充してください。

⑤エンジン回転数計

エンジンが一分間ごとの回転数をrpmで示します。

⑥ウインカーランプ

ウインカーランプスイッチを操作することにより左折または右折を点滅で知らせます。

⑦エンジン警告灯

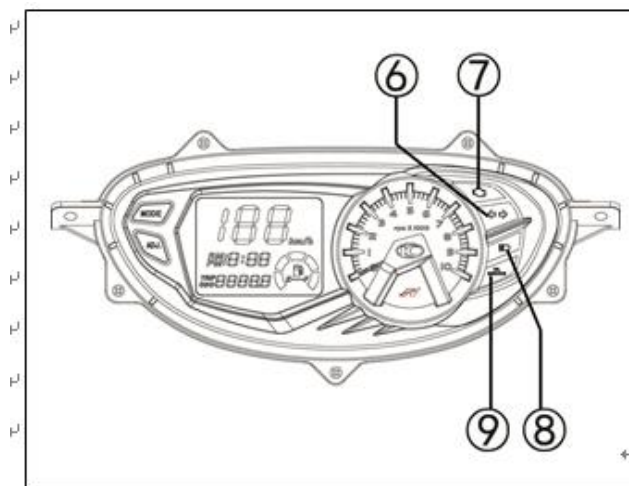
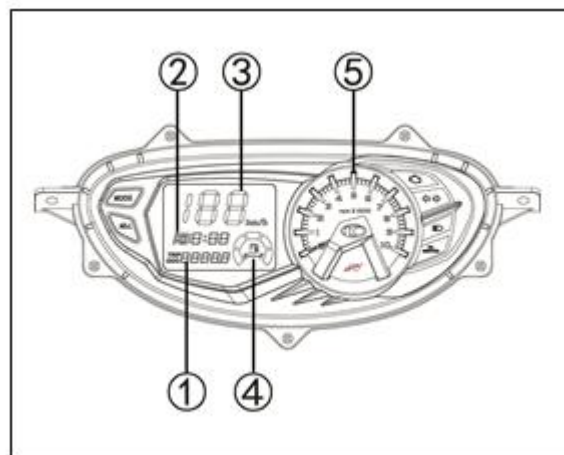
メインスイッチオンにし、エンジン警告灯が2-3秒点灯して消灯します。運転中にこのライトは消灯するのが正常ですが、点灯あるいは点滅した場合はKYMCO販売店にて点検を行ってください。

⑧Hi/Low切り替えライト

Hi/Low切り替えスイッチをハイビームランプ位置に移動すると、このライトはハイビームになります。

⑨オイル交換灯

初回200km、以降1000kmごとにオイル交換灯が点灯し、オイル交換時期を指示します。



液晶メーターの調整

機能キーの取扱

- ①機能キー (MODE) ②調整キー (ADJ)

機能の設定

- ①液晶メーターではODO(総距離)、TRIP(短距離) SERVICE(定期的なメンテナンス距離) 三つのモード。
②ADJキーを3秒間と長押しして、メーターは三つのモードの間に切り替えます。

時間の設定

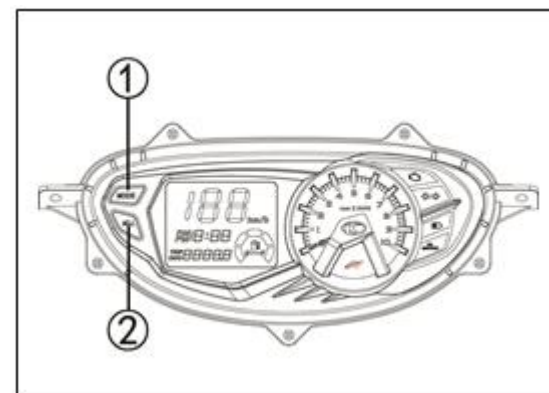
- ①ADJキーを押し、メーターはODO(総距離)モードに切り替えます。
②このモードに、ADJ、MODEキーを同時に3秒間押すと、調整状態に入ります。
③MODEキーを押し、メーターが時と分の数値に取り替えます。
④ADJキーを押し、数値を調整します。短く押せば、数値が1増加し、長押しすれば数値が増加し続けます。
⑤10秒間操作がなければ、自動的に時間設定モードが終わります。

TRIP(短距離)メーターリセット方法

- ①ADJキーを押し、メーターをTRIP(短距離)モードに取り替えます
②ADJ、MODEキーを共に3秒間長押しすると、TRIP(短距離)の数値が自動的にゼロに戻ります。

定期メンテナンス距離のリセット設定

- ①スクーターの走行距離が定期のメンテナンス距離に達せば、オイル交換灯が点灯して、定期的のメンテナンスを行うことを注意します。
②交換するのに、規定オイルを使用して下さい。ADJキーを押し、メーターがSERVICE(オイル交換距離)モードに切り替えます。
③ADJ、MODEキーを共に3秒間長押しすると、SERVICE(オイル交換距離)の数値が自動的にゼロに戻り、またオイル交換灯も消えます。



USB ポート

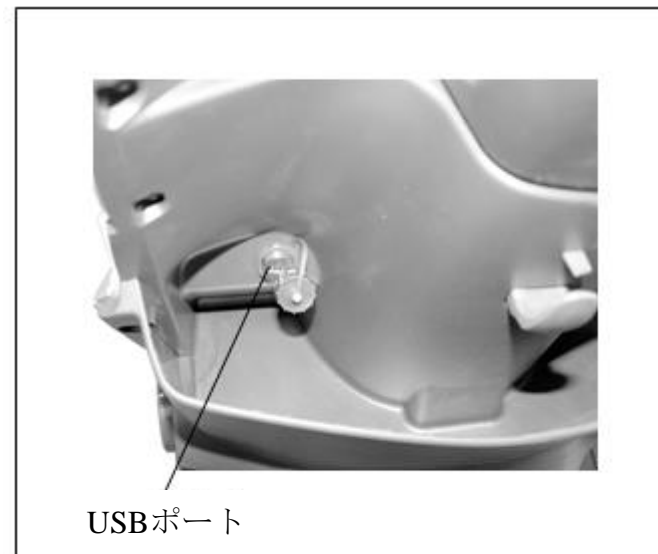
フロントBOXにUSBポートを配置しております。スマートフォン充電のみに使えます。

出力電圧: 5V DC


出力電流: 2A

※注意


1. 充電中に多少発熱現象がありますが正常です。
2. エンジンを停止しても、メインキーがオンの状態であれば、スマートフォンは充電されます。
3. バッテリー上がりを起こすので、エンジンスタートした後にスマートフォンを充電してください。
4. 超過電流を避けるために、同時に多数の機器を接続しないでください。
5. USB充電ポートに対して、一切の改造は禁止です。
6. スマートフォン充電以外に使用できません。




メインスイッチ

 ①この位置の時、全電源が切れて、エンジンがオフし、運転がストップします。

②停止すればキーをスクーターから取り外すことができます。

 ①この位置の時、スクーターの電源が入り、エンジンをスタートできます。


②走行中に、キーは外せません。


 ①この位置の時、ステアリングはすぐにロックします。盗難予防です。

②この状態の時、キーは抜けます。

 ラゲッジBOXを開く。

二つの方法でラゲッジBOXをオープンできます。

① スクーターがエンジンオフの状態：キーを「」位置に、反時計回りの方向へ回転させると、シートが開きます。

② エンジンが運転中：キーを「」位置に、キーを押し、反時計回りの方向へ回転させると、シートが開きます。



メインスイッチのシャッターキー：

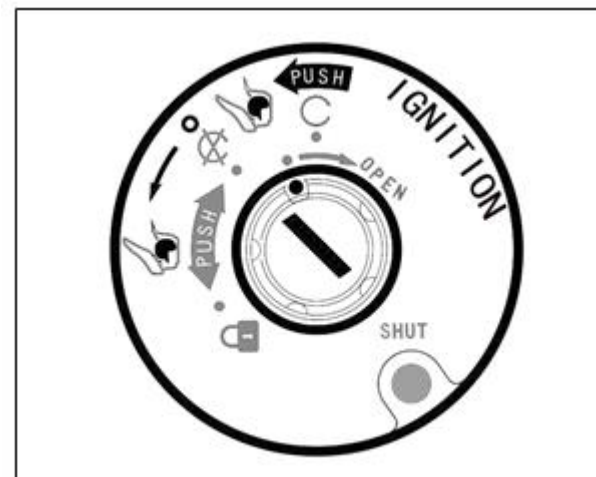
盗難を防ぐために、駐車の際は、メインスイッチのシャッターキーをロックしてください。

ロックする方法：

メインスイッチカバーのSHUTボタンを押せば、シャッターキーをロックできます。

解除方法：


メインスイッチカバー鍵の凹みをメインスイッチカバーの穴に挿して右に回せばシャッターキーが開きます。



※注意

- 盗難を予防するために、駐車した後に、シャッターキーをロックしてください。

起動ボタン

メインスイッチを「」位置にし、ブレーキレバーをしっかりと握り、このボタンを押し、エンジンを起動します。

※注意

1. エンジンが起動したら、すぐ起動ボタンから手を離してください。
2. 起動ボタンの使用時間は4秒間内にしてください。バッテリー保護のため、再度の起動は30秒間以上間隔を置いて下さい。
3. エンジンの運転中、起動ボタンを使用しないでください。エンジンが破損する可能性があります。
4. 起動ボタンをご使用する前に、方向灯のスイッチをオフにしてください。




ライト点灯切り替えスイッチ


日本国内の法規に基づき、ライト点灯切り替えスイッチはありません。

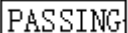
起動ボタン：メインスイッチがONでエンジンが停止している場合、ヘッドライトは点灯しません。エンジンが起動した後に、ヘッドライトは点灯します。



前照灯の切り替えスイッチ


 ……ハイビームを選択したい場合に、この位置を使用してください。

 ……市内に運転する時、すれ違い時に相手の目線に影響しないように、ロービームをお使いください。

 ……パッシングスイッチを押している間のみハイビームになります。





ホーンボタンを押す

メインスイッチが「」位置の時、ボタンを押すとホーンが鳴ります。

ウインカーランプのスイッチ

①右左折、進路変更する場合に、ウインカーライトを使用してください。スイッチが切り替えれば、ウインカーライトがすぐ点滅します。


 この位置は左折の時お使いください。

 この位置は右折の時お使いください。

②消灯時は方向指示灯のボタンを押し込んで下さい。

③ウインカーランプを使用中に、メーターのウインカーランプ指示灯も点滅します。

※注意


1. メインスイッチが「」位置の場合、ウインカーランプは点滅しません。
2. 運転中に、進路変更、右左折する場合に、事前にウインカーを示す習慣を身につけてください。動作終了後、ウインカーライトを消す事を忘れないでください。




ステアリングロック

盗難防止のために、駐車時にはステアリングをロックしてください。


ロックする方法：

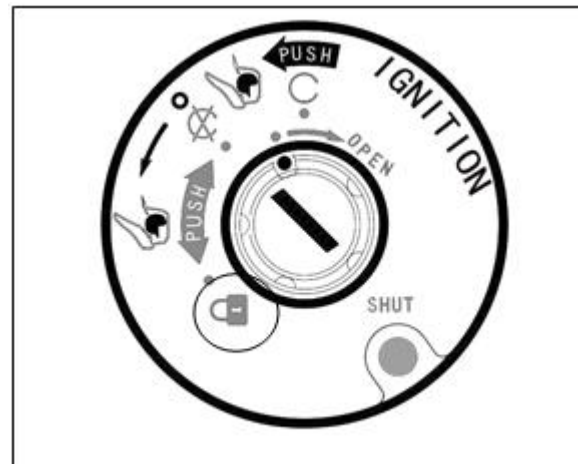
ハンドルを左いっぱいになり、メインスイッチの鍵を鎖穴に挿入します。鍵を回し、「」位置にします。

解除方法：

鍵を「」位置へ回すと、ロックは解除されます。

※注意

1. ロックした後に、ハンドルを軽く動かして、きちんとロックしたかどうかを確認してください。
2. 運転中は、メインスイッチの鍵を「」位置に回さないでください。
3. 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。



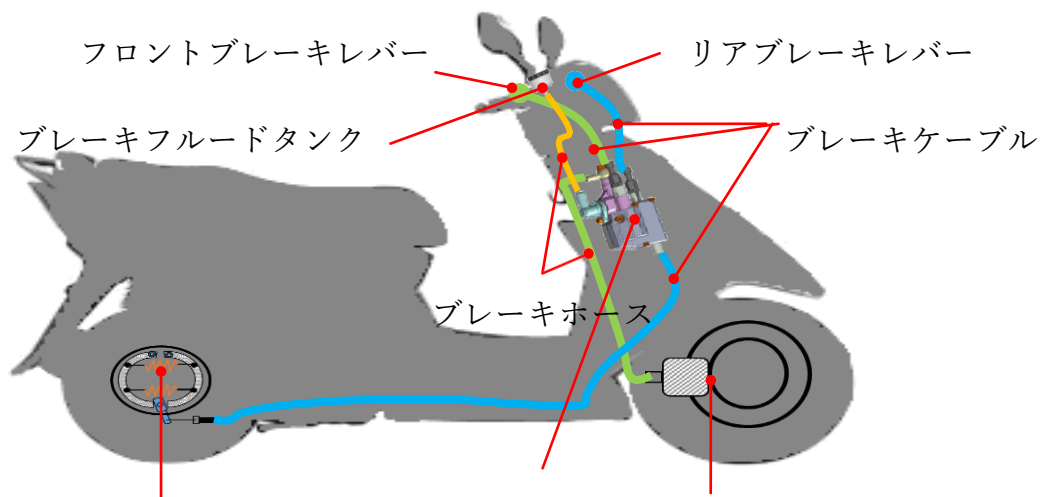
VCBSについて

本車両には可変比例リンクブレーキシステム（VCBS）が装備されています。

- 1.リアブレーキレバーを操作すると、ブレーキレバーを操作する力に比例して、VCBSシステムによってブレーキ力が前輪にもかかります。
- 2.フロントとリアのブレーキレバーを同時に操作する場合、前輪にかかるブレーキ力はフロントとリアのブレーキレバーの力の合計であり、後輪にかかるブレーキ力はリアブレーキレバーのみの力になります。
- 3.フロントブレーキレバーを操作すると、前輪ブレーキのみ作動します。


※注意

- 1.ブレーキ操作を行うときは、危険を避けるために、最初にスロットルを戻してください。
- 2.フロントブレーキとリアブレーキを同時に使用するのが最も理想的なブレーキ方法です。片側のみブレーキを使用すると、車両が不安定になったり、滑ったりして転倒する危険があります。
- 3.運転中は、急ブレーキの使用をなるべく避けてください。急ブレーキは滑りやすく、非常に危険です。




エンジンを起動する方法

1. 起動前に、まずオイルとガソリンの有無をチェックしてください。
2. エンジンを起動する場合は、メインスタンドをかけてください。

- ① ブレーキレバーを握ってください。
- ② メインスイッチを「」位置に回します。

※注意

1. 鍵が「」位置に回ると、ホーン、ウインカーライトが動作します。
2. 起動してスクーターが急に発進しないよう、絶対に後輪をフルブレーキ状態にしてください。
3. 後ろブレーキの調整が正しくないと、後輪をブレーキロックすることができなくて、事故の原因となります。



③エンジンのスタート

起動ボタンを押すと、エンジンはスタートします。スロットルを開ける必要はありません。

※注意

1. メインスイッチがオンにすると、ガソリンポンプが約10秒間動作して、自動的に停止します。
2. エンジンが運転したら、指はすぐボタンから離してください。
3. エンジンの運転中に、スタートボタンを押さないでください。エンジンの部品が破損する可能性があります。
4. 起動ボタンの使用時間は4秒間内にしてください。バッテリー保護のため、再度の起動は30秒間以上間隔を置いて下さい。
5. 排気ガスには身体に有害な物質が含まれていますので、狭い所や通風不良の場合で起動するのを避けてください。
6. 万が一転倒されてしまった場合、転倒検知センサーが作動しますので車体を立て直した後、転倒検知センサーをリセットするために電源を一度オフして再度オンにしてください。



正しい運転の方法について

1.メインスタンドを跳ね上げます。

操作説明：リアブレーキレバーを握ったまま、スクーターを前に押すと、メインスタンドが自動的に跳ね上がります。

2. 左側から乗車し、きちんとした姿でシートに座ります。左脚は地面に接地して転倒を避けて下さい。



※注意

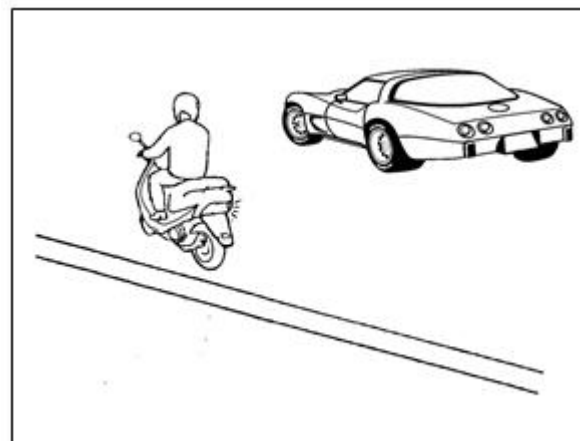
1.運転前に、車が動き出さないように左手でリアブレーキレバーをしっかり握ってください。

2. エンジンがスタートした後に、発進する前にアクセルを回してエンジンの回転数を上げないでください。



正しい運転の方法について

3. 出発する前に、ウインカーを点けてください。それから、後方の安全の確認後に走り始めてください。



スピードの調節方法

1. スピードの調節はアクセルでコントロールします。

① 回す スピードが速くなります。

ゆっくりと加速してください。

始動または上り坂を登ったりする場合、アクセルをゆっくりと回してスピードを上げれば、パワーがアップします。

② 戻す スピードが遅くなります。

戻す時は素早く操作してください。

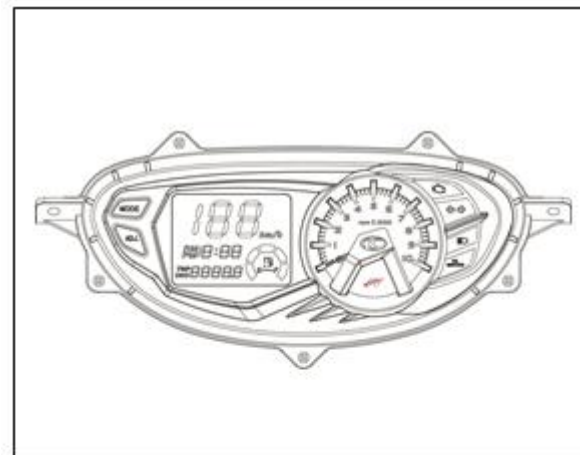


新車の慣らし運転について。

- ①新車の慣らし運転期間1500キロメートル (km) 内は、時速を60キロメートル/時間 (km/h) 以下に控えてください。
- ②急な加速を避けてください。
- ③無負荷の場合、エンジンが高速回転することを避けてください。

ブレーキをかける時、前後ブレーキを同時にご使用ください。

- ①アクセルがオフ位置に戻った後に、前後ブレーキを同時に使い、ブレーキします。
- ②ブレーキをかける時、前後のブレーキをゆっくり引くというのが一番の方法です。



※注意

- 1.リアブレーキのみの使用はスクーターが滑って転びやすいですので避けてください。
- 2.運転中には急ブレーキを避けてください。車体が滑って転倒する恐れがあります。



急ブレーキ、急ハンドルは危険です。

1.急ブレーキや、急なハンドル操作はスクーターが滑り転ぶ原因となりますので、非常に危険です。

雨天時は特に注意して運転してください。

1. 雨天時、路面状況は晴天時と違って、ブレーキ距離は伸びます。スピードを遅くする一方、早めにブレーキをかけておくべきです。また制動開始も早めにしてください。
2. 坂を下る時はアクセルを戻し、ブレーキをコントロールして、ゆっくりと運転してください。



タンデムステップの使用方法

1.後ろに人を乗せる場合、タンデムステップのボタンを押せば、ステップが出てきます。



2.後ろに人を乗せない場合や駐車する時、両側のタンデムステップを内に押せば、タンデムステップが収納できます。

① タンデムステップのボタン




駐車の方法

駐車位置に近づいた時

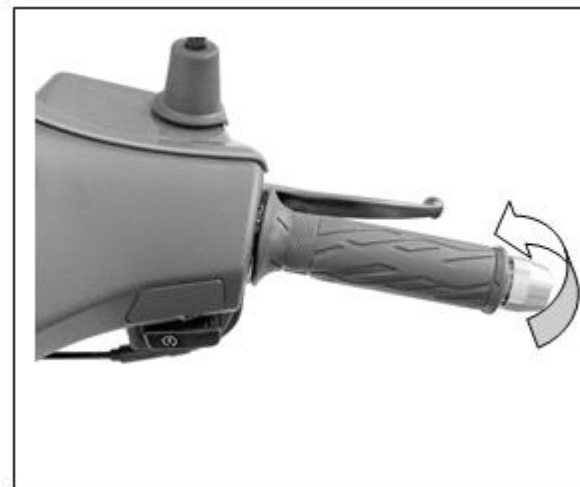
1. 方向指示灯を点灯し、後ろ側の車両に注意して減速します。
2. 前後ブレーキをかけながらアクセルを閉じ、ブレーキランプで後続車に減速を知らせます。

完全に停止した後

方向指示灯のスイッチをオフにして、メインスイッチを「」位置に回します。

※注意

走行中にメインスイッチをオフにして、鍵を鍵穴から抜いてしまうと、とっさの場合に再始動ができず、事故の原因になります。必ず駐車してから、鍵を抜いて下さい。



スクーターを停止する時

平坦な場所でメインスタンドをかけてください。

- ①交通を邪魔しない平坦な場所でメインスタンドをかけて下さい。
平坦でない場所ではスクーターが倒れやすいです。
- ②左手はハンドルを握って、右手はシート下のサイドバーを引いてください。右足に力を入れて、メインスタンドを踏むと同時に、右手も力を使って、後ろへ引いてください。

盗難防止のため、駐車する時は必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチキーを抜きます。



運転前の点検

1. 運転前にスクーターの点検を行う習慣を身につけてください。
2. 安全のために、またスクーターの故障と事故がないように、事前に、スクーターについて、必ず点検してください。
3. 異常があれば、KYMCO販売店にて点検と修理を受けてください。

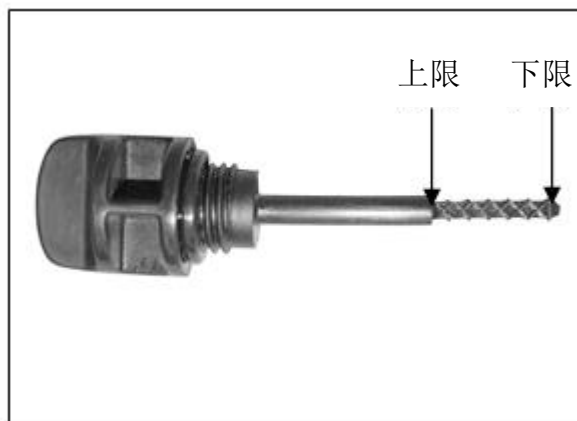
(一) エンジンオイルの点検と補充

1. エンジンオイル量の点検（エンジンが停止してから10分以上経過してから実施してください）
 - ① メインスタンドを立たせ、計量尺を取り出し、綺麗に拭きます。
 - ② オイル計量尺を直接に挿してください。（ネジ込まないでください）。
 - ③ オイル計量尺を取り出し、オイルの容量をチェックします。オイルレベルが下限以下の場合、上限までオイルを補充してください。

推奨するオイルの規格

SAE：10W/30、API：SLグレード以上

- 違うブランドや違うレベルのオイルを混用しないでください。推奨規格オイルをご使用ください。
- 運転の状況や、環境の影響で、オイルは劣化したり、消耗したりすることがあります。いつも運転する前にオイルの残量をチェックしてください。足りない場合は上限と下限の間に、オイルを補給してください。



(二) ガソリンの点検と補充

1. ガソリンメーター量指示が最後の一角が点滅すると、有効の残量1.0Lの意味です。
2. 早めに無鉛ガソリンを補充してください。
3. ガソリン・タンク・カバーの使い方：
 - ① シートを開きます。
 - ② 反時計回り方向へ回転し、ガソリントクの蓋を取ります。
 - ③ 蓋を閉める時はガソリントクの蓋を押して時計回り方法へ回し、しっかり閉めてください。



※注意

1. ガソリンを補充するときに、基準線の上限をオーバーしないでください。ガソリンが漏れやすくなります。
2. エンジンの故障を避けるため、ガソリンを注ぐ時、他の添加物を加えないでください。
3. ガソリンを補充するときに、必ずエンジンを停止してください。
4. 本機種はEECシステムを採用しています。ガソリンの順調的な提供及びキャニスターの保護のため、オーバーフローすることは禁止です。



(三) ステアリングの点検

- 1.上、下、前、後、左、右の揺れをチェックして、スムーズに動くかどうかご確認してください。
2. 作動が硬くないかをご確認ください。
3. 各ワイヤー類がステアリング操作により影響が出ていないかをご確認ください。
- 4.異常があれば、KYMCO販売店にて点検と修理を受けてください。



(四) ブレーキの点検

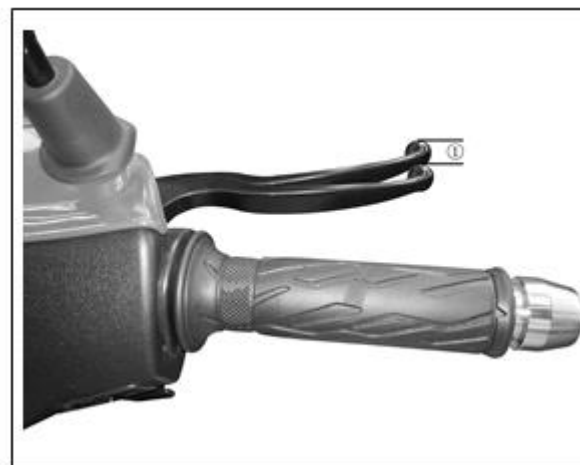
1. ブレーキレバーは適当な握りしろが必要です。

通常の握りしろ:①15~20mm

2. 「握りしろ」はレバーを引き始めてから、きつい感じするまで引く距離のことです。

※注意

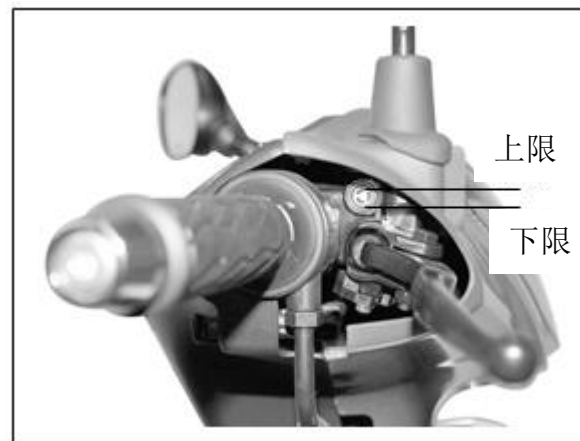
1. リヤブレーキレバーを引いて、ブレーキ指示マーク「△」とブレーキシューの指示マーク「△」が対するとなると、ブレーキシューの使用限度を示します。必ずKYMCO販売店にてお取り替えください。



ディスクブレーキ液の点検

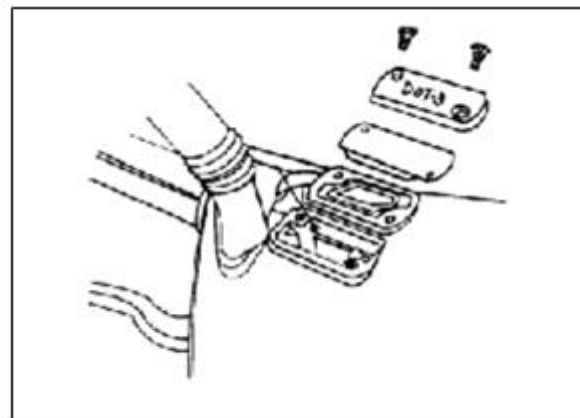
〈ブレーキの液面〉

- 1.ハンドルを正面に向け、ハンドル右側のフルードタンクのブレーキフルードをチェックして、液面が上限と仮面の間にあることを確認してください。
- 2.液体が下限位置の近辺にある場合、ブレーキディスクやブレーキパッドの摩耗を点検してください。
- 3.ブレーキディスクが摩耗していたり、あるいはフルード漏れ等の現象があれば、**KYMC**O販売店にて点検を受けてください。



〈ブレーキフルードの補充〉

- 1.ハンドルカバーを取り外します。
- 2.オイルタンクを水平にして、タンクにある2本の固定ネジを取って、フルードタンクのカバーを取り外してください。
- 3.DOT-4規格のブレーキフルードをオイルタンクに上限まで注ぎ、ネジをしっかりと閉めてください。
- 4.ブレーキオイルの腐食性は強いので、ブレーキフルードが付着して部品を損壊しないように、取り外しと取り付ける時は、ウエス等で注ぎ口の周囲を保護してください。



(五) ブレーキドラムの調整

1. ブレーキが効きにくい:

ナットを時計回りの方向にレバーの隙間が10~20mmまで調整してください。

2. ブレーキが効きすぎる:

ナットを反時計回りの方向にレバーの隙間が10~20mmまで調整してください。


※注意

1. ブレーキを調整した後に、ナットの凹部を調整して確実にピンに合わせてください。危険性を防止します。




ブレーキの効きは良いか。
試走行して、ブレーキの効きを点検してください。

(六) ブレーキライトの点検

- 1.メインスイッチを「」位置に回してください。
- 2.前、後のブレーキレバーを引いて、ブレーキライトが点灯するかどうかご確認ください。
- 3.ライトのカバーをチェックしてください。汚れや破損などが無いことを点検してください。



(七) ウインカーライトの点検

- 1.メインスイッチを「」位置に回してください。
- 2.ウインカーライトのスイッチを操作して、前後左右の方向指示灯が点滅するかどうかご確認ください。
- 3.方向指示灯カバーの汚れや破損が無いことを点検してください。



(八) 前後ショックアブソーバの点検

- 1.レバーやシートに重量をかけてください。不連続的に下へ押すという動作をして、前、後の緩衝機能が良好か点検してください。



(九)タイヤの点検

1.タイヤの気圧の確認。

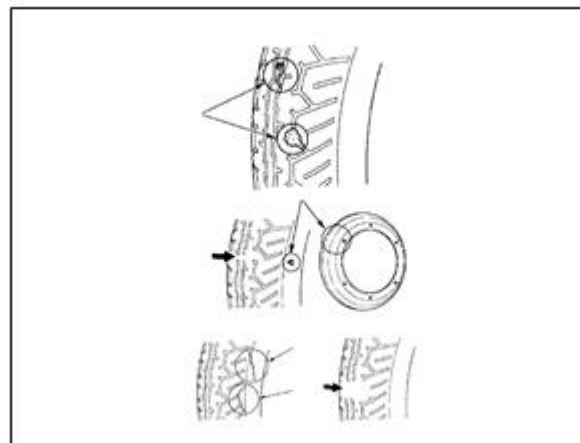
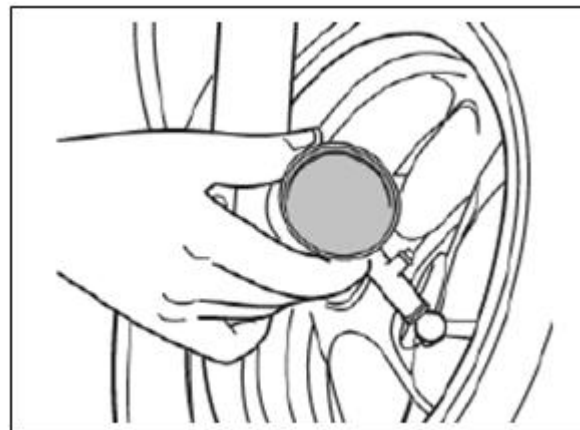
スクーターが冷間時にタイヤの空気圧力を点検してください。

	一名乗車	二名乗車
前輪	1.75kgf/cm ²	1.75kgf/cm ²
後輪	2.0kgf/cm ²	2.25kgf/cm ²

2.タイヤの溝の内に金属の碎片や小石などはさみ込みがないかどうか、点検してください。もしあれば、取り除いた後に運転してください。


3.タイヤの表面に亀裂が発生している、あるいはタイヤの溝の深さについて、摩耗が限度を超える時はすぐ新しいタイヤに取り替えてください。

(図の矢印をご参考してください)



(十) 液晶メーターの表示は正常か。

(十一) ホーンが鳴りますか。

メインスイッチを「」位置にホーンのボタンを押してください。

(十二) バックミラーの角度は適当か。

シートに座り、スクーターの後方が確認できるか、汚れや損壊が無いかをご確認してください。

(十三) ナンバーは汚れていないか。

ナンバーが正しく装着されているか、汚れ等で正しく読み取れなくなっていないかを点検してください。

(十四) 排気管は正常か。

ネジのゆるみ、排気漏れが発生していないかどうか排気管を点検してください。

(十五) 過去に起こった他の異常現象は、まだあるのか。

1.安全かつ快適に運転するために、必ず定期メンテナンスを受けてください。

2.点検の間隔及び点検の項目は「定期メンテナンス表」をご確認ください。

3.点検の間隔及び点検の項目は「定期メンテナンス表」をご確認ください。

4.長期間保管後に再び乗り出す場合、必ず定期点検をお受けください。

●初回点検

1.新車を購買されてから一ヶ月内にあるいは300キロメートル(km)距離を走行した後に、必ずや点検やメンテナンスを行ってください。

定期メンテナンス表

安全維持性能を延長し、スクーターの寿命を延ばすため、汚染排出を減少するために、定期点検とメンテナンスをきちんと行いください。

排出システムと定期メンテナンス表

I : 点検、必要があれば、潤滑、補充、修正、交換。 A : 調整 C : 清潔 R : 交換 T : 締付 M : 修理、メンテナンス D : 診断器の点検

点検項目	走行距離(km)																備考	
	300	1000	2000	3000	4000	5000	6000	7000	8000	9000	10000	11000	12000	13000	14000	15000		
潤滑システム	エンジンオイル	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	I : 点検 A : 調整 C : 清潔 R : 交換 T : 締め付け M : 修理、メンテナンス D : 診断器の点検 * KYMCO 販売店へ行って、修理、メンテナンス、診断器の点検などを標準の手順に従って行ってください。 * 走行中や点検中、オイルを必要があれば、補充、調整あるいは交換して下さい。 * 2000km ごとにエンジンシヨノズル清潔材をガソリンタンクに入れてください(容量は指示をご参考してください)
	オイルフィルター	C		C			C				C						C	
	ギアオイル	R			R			R			R			R			R	
燃料供給システム	燃油ポンプ/燃油ポンプのフィルター			I/C			I/C				I/C					I/C		
	インジェクターケーブル			I			I				I					I		
エア供給システム	エアフィルター			C			R		C		R		C			R		
	活性炭のタンク			I			I				I					I		
	CVT 伝送/スポンジのフィルター			C			R		C		R		C			R		
	PCV 蒸発のコントロールパブル			I			I				I					I		
	関係ある空気の流通路をコントロールする			I			I				I					I		
駆動システム	触媒コンバーター			I			I				I					I		
	凸輪のチェーン			I			I				I					I		
	駆動のチェーン																	
	駆動ベルト			I			I			M		I			M	I		
点火システム	パブルクリアランス			I			I				I					I		
	点火プラグ				I		I			I			I			I		
エンジン管理システム	点火路線						I				I					I		
	スロットルボディ						M/I				M/I					M/I		
	燃油のノズル			D/M			D/M		D/M		C		D/M			D/M		
	アイドリング空気バイパス弁						D/M				D/M					D/M		
	エンジンの温度センサー			D			D		D		D		D			D		
	吸入圧力センサー			D			D		D		D		D			D		
	回転センサー			D			D		D		D		D			D		
	イグニッション・コイル			D			D		D		D		D			D		
他	バッテリー			D			D		D		D		D			D		
	シャシボルト	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T		
	ブレーキシステム	I	I	I	I	I	I	I	I	I	M	I	I	I	I	I		
	ブレーキライン	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I		

(2)不定期メンテナンス

項	目	現象	処
点	火	シ	ス
カ	ー	ボ	ンの
駆	動	シ	ス
ピ	ス	ト	ン
燃	油	の	ノ
		ズ	ル
		連続性の点火異常、エンジンが熱すぎてエンジンが停止することがあればメンテナンスや点検を行ってください。	
		10000-15000km にエンジンのパワーが大幅に下がると排気システムやシリンダーのヘッド、ピストンヘッドに詰まった炭を取り除いてください。	
		5000km 以内に、急に下げるとあれば、CVT システムについて、メンテナンスや点検を行ってください。	
		1000km 内に以前は厳しく使いすぎたれば、ピストン、ピトリングとシリンダー・ブロックの磨損や焼き付きを招くおそれがありますから、清掃するか、ボーリング、ホーニングあるいは新品で替えてください。	
		1000km ごとに、あるいは長時間放置して未使用する場合、ノズルに詰まったカーボンとコロイド物を清潔してください。	

オイルの交換

〈交換の時期〉

1.新車は初めて走行距離が300キロメートル (km) に達せばオイルを交換してください。その後は、1000キロメートル (km) ごとに交換してください。

2.オイルの容量

分解時 : 0.9L

一般交換時 : 0.8 L

〈交換の方法〉

1.①のオイルの計量尺を取り除いてください。

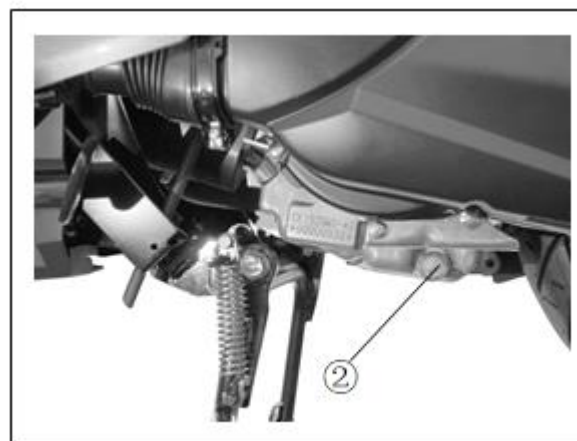
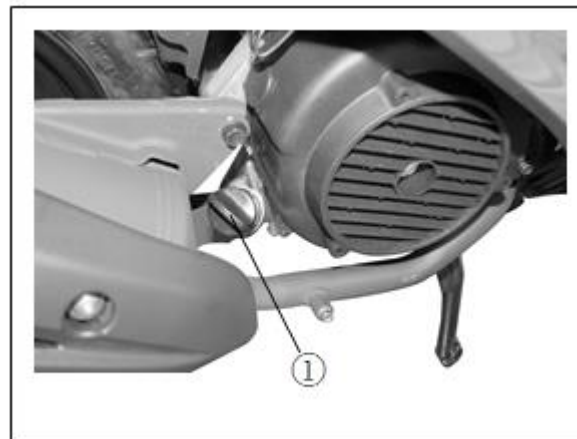
オイルを排出するネジ②を外して、オイルを排出してください。
エンジンオイルは温まっていると流れやすいです。

2.排出ネジを綺麗にして締付してください。

3.新しいオイルを注ぎ、オイルの計量尺を使いオイル量をご確認ください。

4. オイル注入後、キャップは必ずしっかり取付けてください。

5.エンジンが回転し、暖かくなれば、10~20秒を停止して、再びとオイルの量をご確認ください。



※注意

- 1.推奨規格のオイルをご使用ください。
規格は：SAE：10W/30 API：SL以上
- 2.下記の条件でお使いした場合、オイルがより劣化しやすいので、早期に交換してください。
 - * 常に荒れた路面、未舗装路を走行する。
 - * 常に短距離で走行する。
 - * 空回りの時間が長すぎる場合。
 - * 寒いところでの使用。
- 3.オイルの補充について、オイルの量は必ず計量尺上限の印を超えないでください。
- 4.エンジンオイルを交換するときに、やけどをしないようにご注意ください。

オイル交換する注意事項

- 1.オイルが過量しても少なく過ぎても、エンジンの性能に影響があります。
- 2.オイル過量時の影響：
エンジンを起動するときに、回転する抵抗力が増加して、出力のパワーを下げて、油温が上がるのが早すぎて、オイルが早めに劣化することになります。
- 3.オイル過少時の影響：
エンジンが運転するとき、摩擦部位のオイルの供給量が少なくなり、焼き付く恐れがあります。
- 4.エンジンの故障を避けるために、メーカー、クラスの異なるオイルの混用をしないでください。また、品質の劣るオイルを使用しないでください。

ギアオイル

〈交換の時期〉

1.新車から300KM、以後3000KMごとに交換してください。

2.推奨ギアオイル

SAE90#規格のオイル。

3.ギアオイルの全容量/交換量：180ml/110ml

〈交換の方法〉

1.平坦な所でメインスタンドをかけてください。

2.オイルを排出するボルト①及びオイルの注ぎボルト②を外してください。

3.ギアオイルは温まっていると流れやすくなります。

4.オイルの排出ボルトを綺麗にしてから、しっかりと締付けしてください。

5.ギヤ油の注ぎ口からギアオイルをゆっくり注いで、検油口③からオイルが垂れるまで注いでください。

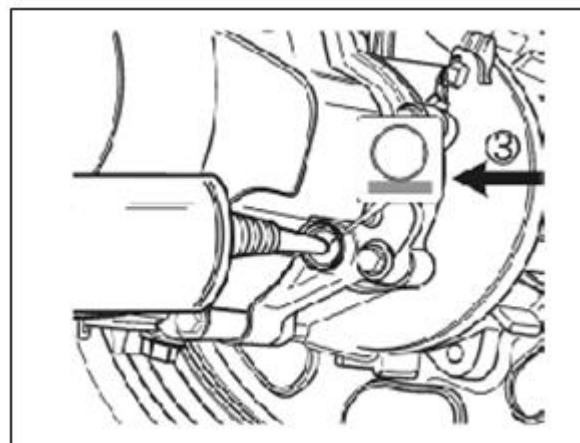
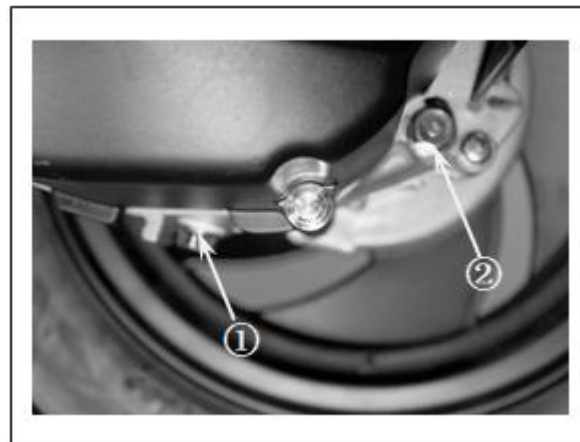
6.ギアオイルを注入後、ボルトをしっかりと締付けてください。

※注意

1.悪天候時の運転が多い場合、通常より短いスパンでギアオイルを交換してください。

2.長時間運転が多い場合、通常より短いスパンでギアオイルを交換してください。

3.高負荷運転が多い場合、通常より短いスパンでギアオイルを交換してください。



点火プラグの点検

1.点火プラグが汚れているか、隙間が大きい場合、不完全な点火となります。

〈清掃する方法〉

1.点火プラグクリーナーを使ってください。

2.クリーナーがなければ、針等を使用してください。

〈調整〉

1.サイドの電極隙間について規定値は0.6~0.7mm

〈指定の点火プラグ〉 NGK CR7HSA

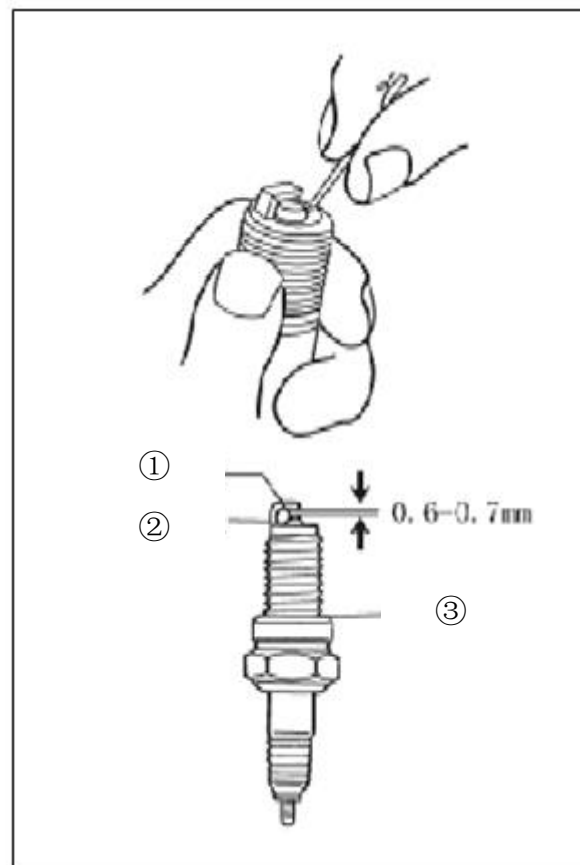
1.指定以外の点火プラグは避けてください。

2.高速運転あるいは過重積載運転の場合は高熱値の点火プラグに交換してお使いください。

※注意

1.エンジンが停止してから、点火プラグを取り替える時に、温度が高いので、やけどなどしないようにご注意ください。

2.点火プラグを取り付ける時に、まずは点火プラグを指で締付けてから、点火プラグレンチでしっかりと締付けしてください。



①	中心電極
②	サイド電極
③	熱輪

エアフィルターの交換方法

手順

- 1.エアフィルターカバーを固定する5本のネジを外して、エアフィルターカバーを取り外してください。
- 2.エアフィルターを固定する3本のネジを外して、エアフィルターを取ってください。
- 3.清掃し、あるいは交換を行います。
- 4.取り付ける時は取り外しの手順を逆にして取り付けてください。

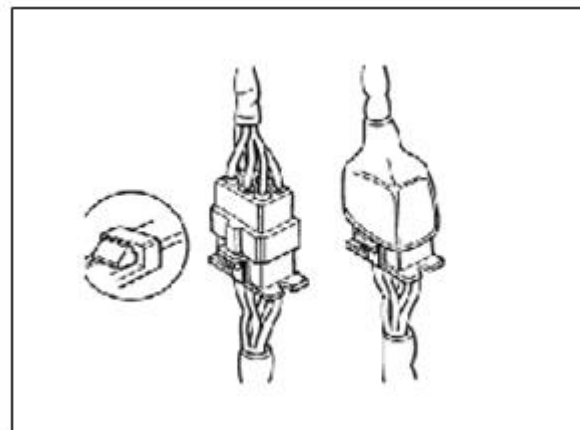
※注意

1. 1000キロメートル(km)ごとに、エアクリーナーBOXのオイルパイプ内の積まったオイルを綺麗にしてください。
2. 4000キロメートル(km)ごとに、エアフィルターを交換してください。(路面にホコリが多い場合、エンジンの性能を維持するために、事前に交換してください。)
3. エアフィルターに、必ず蓋をしてください。ホコリが入り、エンジンの使用寿命を短縮させます。



配線類のゴムカバー


- 1.配線類はカバーで保護されています。カバーが正しく装着されているかどうか点検してください。
- 2.スクーターを洗う前に、直接に水をカバーに向けて流したり、ブラシでこすったりしないでください。汚れやホコリは柔らかい布で綺麗に拭いてください。



ヒューズの交換

※注意

ヒューズの交換

- 1.短絡、感電防止のためにヒューズをチェックあるいは取替する前に、まずメインスイッチを「」位置に回してください。
- 2.定格以外のヒューズを使わないでください。定格以外のヒューズが使われた場合、メーカー保証対象外となります。
- 3.規定標準以外のヒューズを使えば、配線は温度が高くなり、発火する恐れがあります。
- 4.電気部品を交換する時に純正部品を使用してください。
- 5.ヒューズが溶断したら再びの溶断を防ぐ為、まず原因を究明してから、新品を交換してください。
- 6.ヒューズが切れた原因が不明の場合、KYMCO販売店にて点検を受けてください。
- 7.スクーターを洗車する時に、カバーの周囲はなるべく高圧洗浄で洗い流すことを避けてください。



① ヒューズボックス

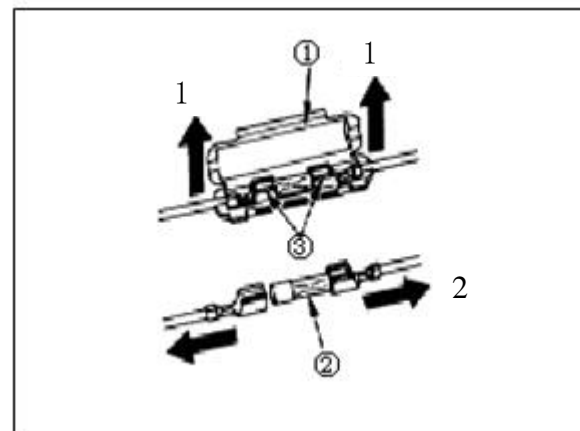
② バッテリー

取り外す時

- 1.ヒューズの上カバーを開き、ヒューズを取り出してください。
- 2.ヒューズは接触不良を起こしている場合発熱しやすく、故障しやすいです。

取り付ける場合

- 1.ヒューズを固着具に入れて、上蓋を下へ向いて押し、しっかり固定してください。
- 2.取り付けたら、ヒューズを引いて確認してください。ゆとりがあれば、線路が発熱ことを起こして、故障になりやすいので、ご注意ください。



1	上へ引く
2	左右に引く

①ヒューズクリップ ②ヒューズ ③固着具

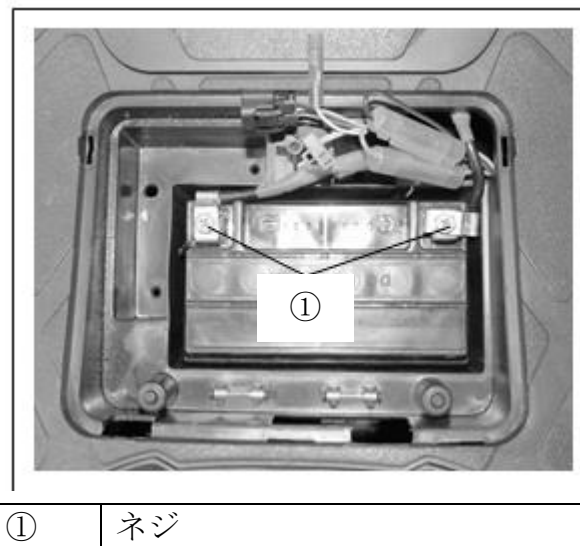
バッテリーの点検

- 1.本機種はMFバッテリーを採用しております。
- 2.バッテリー液を点検したり補充したりする必要はありません。

バッテリーの端子

- 1.バッテリーの端子を清掃する時はまずバッテリーカバーのネジ1本を取り外して、それから、バッテリーカバーを外してください。
- 2.バッテリーの端子に腐蝕が発生した場合、バッテリーを取り出し、清掃してください。
- 3.清掃してから、バッテリー端子の頭部にグリスあるいはワセリンを塗装して、その後バッテリーを入れてください

バッテリーの規格：12V8AH YTX9-BS

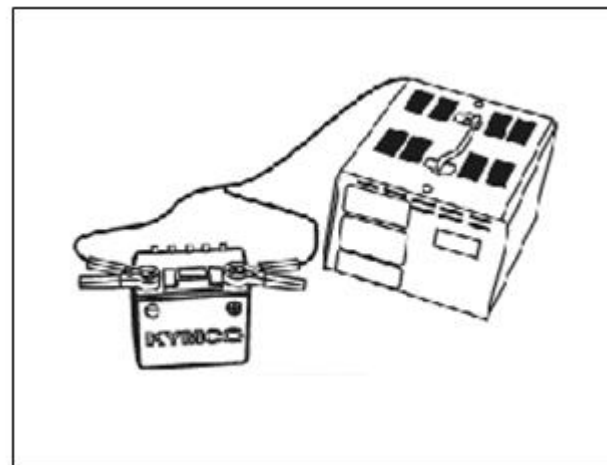


※注意

- 1.バッテリーの取り替えは必ず火元から遠い場所で行ってください。
- 2.取替の時に、必ずメインスイッチをオフにしてください。取り外す場合はマイナス端子から外し、取付をする場合はプラス端子から取り付けてください。
- 3.端子のネジが緩んでいたら、しっかりと締付けしてください。

※注意

- 1.密閉式のバッテリーの電解液のカバー絶対に分解しないでください。
- 2.バッテリーは燃えやすい気体を生じますので、取り付ける時は火元の近くで作業をしないでください。
- 3.バッテリーの液体は希硫酸で、目を傷つけますので、万が一皮膚に付着した場合直ちに清水で洗い流してください。その後、病院へ行って診療を受けてください。
- 4.充電する時は電極の連続線ご注意ください。
- 5.バッテリーは自動的に放電します。車両を長期間保管する場合バッテリー上がりを防止するために完全に充電してから、涼しくて風通しの良い場所に保存してください。車体に残す場合には、マイナスターミナルを外してください。
- 6.車両を一ヶ月以上使わない場合、バッテリーの状態を維持するために月一回充電してください。
- 7.詳しいことについて、KYMCO販売店へご相談ください。



車体各部の潤滑について

目視でチェックして、車体の各部の潤滑部は十分かどうかご確認ください。

故障した場合

運転中に故障が生じた場合、KYMCO販売店にて点検を行ってください。

エンジンが起動できない場合

運転中に停止すれば、下記の項目に従いチェックしてください。

1. ガソリンの残量。

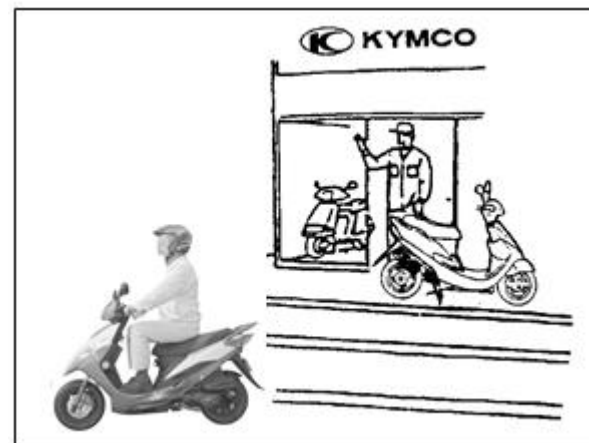
燃料計は最後の一角に近づく前に無鉛ガソリンを補充してください。

2. エンジンの起動方法は正しいかどうかご確認ください。

3. バッテリーの電圧は十分かどうか。

4. エンジンチェックランプが点滅しているかどうか。

5. 他の部品に問題があるかどうか。



諸元表

内容	GP 125
エンジンのタイプ	4ストローク 強制空冷 単気筒
気体排出量	124.6cc
ボア×ストローク	52.4*57.8mm
圧縮の比率	9.6:1
最大パワー	6.6kw/7500rpm
最大トルク	9.2N.m/5500rpm
最低の無負荷安定回転数	1800±100rpm
変速方式	CVT
クラッチ	乾式遠心式
点火方式	ECU
起動方式	セルモーター
点火プラグ	CR7HSA
ヒューズ	15A*2
潤滑の方式	圧送飛沫併用式

内容	GP 125
長×幅×高	1810*705*1100mm
車体重量	110kg
ホイールベース	1210mm
タイヤ	前/後100/90-10
使用燃料	無鉛ガソリン
オイル全容量	0.9L
燃料タンクの容量	5.0L
オイルの規格	SAE : 10W/30 API : SL
バッテリー	12V8AH YTX9-BS
最高速度	85km/h
ブレーキ方式	VCBS (前:ディスク 後:ドラム)
ブレーキ操作方法	前後 : ハンドブレーキ
最低地上高	105mm